秋田県仙北郡仙北町高梨字田尻木3-3
仙北町公民館内
秋田県払田柵跡調査事務所

秋田県文化財調査報告書第51集

大内坂II遺跡発掘調査報告書

秋田県埋蔵文化財センター

1978・3

秋田県教育委員会

大内坂II遺跡発掘調査報告書　1978　正誤表

ページ	行	誤	正
3	下から4行目	遺重	貴重

序

国営能代開拓建設事業は，東北農政局能代開拓建設事業所が主体となり，地域農業振興のため農用地造成をおこなうものであります。事業は昭和51年度から59年度まで計画されており，当該地域に所在する周知の遺跡を工事施工前に調査し，記録保存をはかることになりました。

本年度は「大内坂II遺跡」の調査を実施しましたが，本報告書が地域の理解と文化財愛護の一助になれば幸いです。

おわりに，調査ならびに報告書作成にあたってご協力いただいた永瀬福男，川村　正，能代市教育委員会，東北農政局能代開拓建設事業所の方々に深く感謝の意を表します。

昭和５３年３月

秋田県教育委員

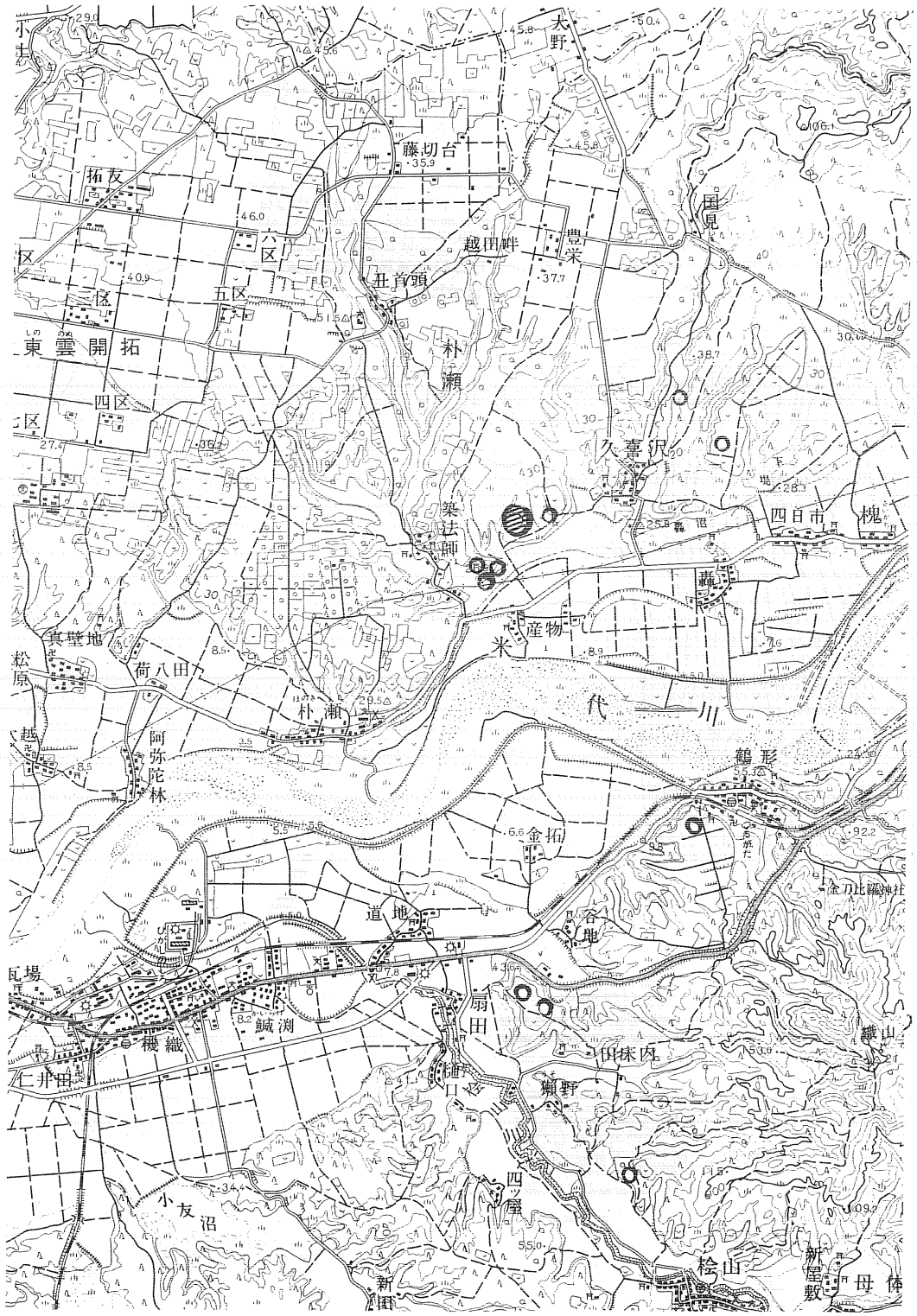
教育長　畠　山　芳　郎

目　　次

Ⅰ　遺跡の立地と環境……3
Ⅱ　発掘調査に至るまでの経過……3
Ⅲ　調 査 の 概 要……4
Ⅳ　出土遺構と遺物……5
Ⅴ　遺構外出土遺物……9
Ⅵ　む　す　び……9

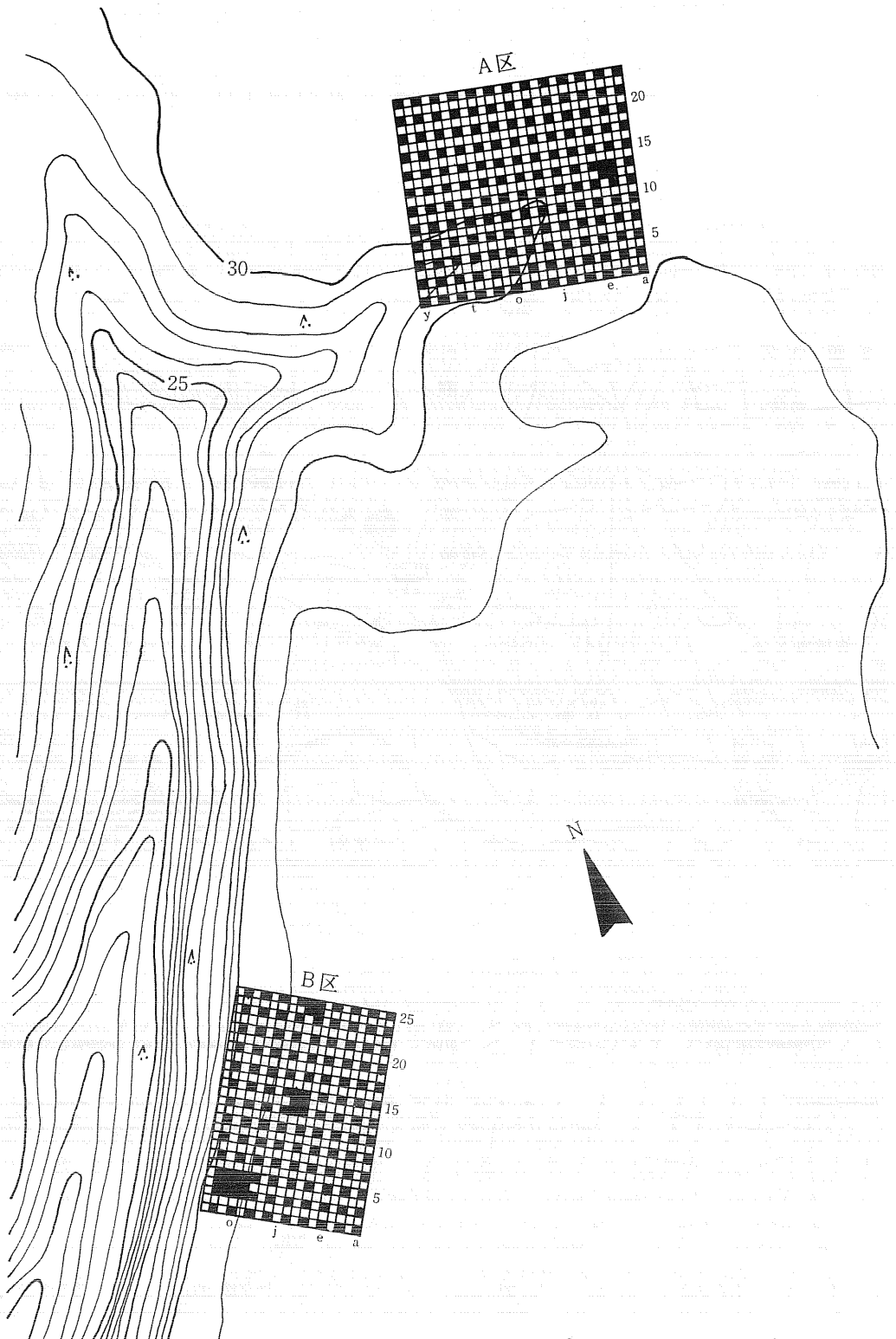
図1　遺跡の位置および周辺地形図……1
図2　グリット配置図……2
図3　竪 穴 住 居 跡……5
図4　竪　穴　遺　構……6
図5　B区遺構外出土遺物……7
図6　B区遺構外出土遺物……8

図版1　遺跡遠景・発掘調査風景……11
図版2　竪穴住居跡及び炉……12
図版3　竪穴遺構及び土器出土状況……13
図版4　B区竪穴出土遺物……14



第１図　遺跡の位置および周辺地形図　　1:50,000　能　代

（◍ 大内坂Ⅱ遺跡　　○ 遺物包含地）



第2図　グリット配置図

I　遺跡の立地と環境

大内坂II遺跡は，秋田県能代市久喜沢字大内坂43番地，他に所在する。久喜沢部落の西側の農道を登ると広大な東雲台地が開ける。遺跡は，東雲台地の南縁に位置し，標高30mである。

東雲台地は，水田を中心に畑地，放牧場，牧草地として利用されている。近年，藤里町素波里ダムから灌漑用導水路が建設され，東雲台地の環境は急激に変化しつつある。

大内坂遺跡の現況は，みょうが畑と雑木林であったが，発掘調査時には，雑木林はブルトーザーで掘りおこされ，みわたすかぎり荒涼としていた。急激な変化は，この遺跡にも押しよせていたのである。

遺跡の下には，米代川がいくぶん蛇行しながら西流し，日本海に注ぐ。日本海から遺跡までの距離は約 7.5kmである。

日本海と米代川は，古代から現在にいたるまで，能代市のみならず，県北地方の政治，経済，文化に大きな影響をおよぼしてきた。このことは，米代川河口付近が歴史に登場するのが，県内でも古いことからも理解できる。すなわち，658年には，阿倍比羅夫が渟代港に上陸し，渟代郡を設置「日本書紀」。771年には，渤海国使一万福，17隻の船に 325人を乗せ野代に漂着「続日本紀」。878年，野代営を守ろうとした兵 600人が，千余人の賊に襲われて敗走「三代実録」。これらの記録は，米代川河口周辺が早くから，人々によって開拓されていたことを示すものであろう。

米代川の河口周辺の台地には，縄文時代から歴史時代にいたるまで数多くの遺跡が点在する。このうち発掘調査された遺跡は，米代川北岸では金山チャシ(1)，平影野(2)，八森坂(3)，中台遺跡(4)，南岸では大館遺跡(5)，柏子所貝塚(6)がある。

II　発掘調査に至るまでの経過

1．調 査 の 目 的

国営能代土地改良事業は，東北農政局能代開拓建設事業所が主体となり，地域農業の振興をはかるため，農用地の造成及び圃場整備を行うものである。能代市久喜沢字大内坂の畑地及び水田11,630㎡の生産基盤整備地域内には周知の遺跡「大内坂II遺跡」が所在する。同遺跡は，東雲原野の原始時代及び古代の生活を知る上で遺重な遺跡である。遺跡の事前調査を実施し記録保存をはかり，今後の資料とするものである。

2．調 査 の 要 項

調 査 主 体　　秋田県教育委員会

調査期間　昭和52年９月15日～９月30日

調査地点　秋田県能代市久喜沢字大内坂43，他

調査担当者　永瀬福男，川村　正

調査補助員　小林鉄雄，平川美樹也

調査参加者　佐々木信夫，芹田芳雄，芹田良雄，鈴木市郎，鈴木キノ，鈴木幸子，鈴木孫治郎，佐々木為三郎，佐々木愛子，芹田トキエ，芹田キセ，佐々木カツ，芹田清一，佐々木肇，七戸幸作，岩森みよ，工藤ゆき子，工藤ミヨ，鈴木キヨ，小野タイ子，鈴木ふみえ，斉藤アヤ子，桧田キミエ，川村いつ，神馬常太郎，伊藤秀次郎，蝦名百太郎，何保セツ，笹森セイ子，棟方カツエ，工藤タミエ，蝦名キワ，神馬ヨシノ

調査事務担当

秋田県教育庁文化課　門間光夫，富樫泰時

東北農政局能代開拓建設事業所　伊藤茂雄，佐藤秀逸

調査協力機関

東北農政局能代開拓建設事業所　　能代市教育委員会

Ⅲ　調査の概要

１．調　査　方　法

久喜沢部落から台地に登ると，広大な畑地がみえる。大内坂Ⅱ遺跡は，台地の南縁から北に広がる。調査対象地（4,280㎡）は，農用地造成及び圃場整備事業のため，雑木林が押したおされ，工事が開始されようとしていた。雑木林が除去された後には，縄文時代の土器片が点々と散布していた。

発掘区は，台地西側の小谷に沿って，Ａ区（50ｍ×46ｍ）とＢ区（50ｍ×36ｍ）を設定し，これらの発掘を２ｍ×２ｍで区切り，南北方向を算用数字で，東西方向をアルファベットで表現した。グリッドの名称は，算用数字とアルファベッドの組み合わせで呼ぶこととした。遺構の実測は，すべて平板実測で実施した。

２．調　査　経　過

９月15日，Ａ区にグリッド設定のための杭を打ち，表土除去作業を開始する。９月20日までＡ区の調査を実施したが，縄文土器小片が数点出土したのみで，遺構は検出できなかった。９月21日，発掘調査をＢ区に移す。９月24日，遺構らしき惰円形のプランを確認し，精査したらブルトーザーによる抜根の痕跡であることがわかった。９月27日，小竪穴遺構を確認，精査する。９月28日，円

形の竪穴遺構を確認，精査する。９月29日，円形の遺構は，縄文時代の竪穴住居跡であることが判明した。９月30日，竪穴住居跡の写真撮影と実測を行い，大内坂Ⅱ遺跡の調査を終了した。

Ⅳ　出土遺構と遺物

A　区

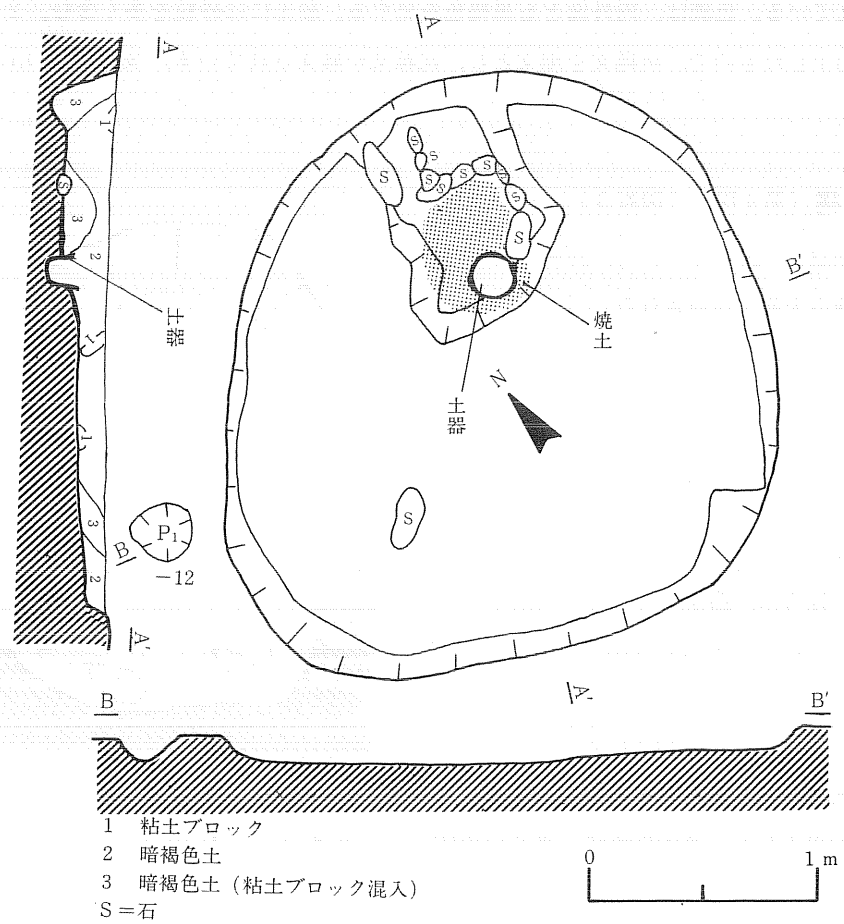
記録すべき遺物，遺構は検出されなかった。

B　区

竪穴住居跡１と竪穴遺構１が出土した。

竪穴住居跡（第３図）（図版２）

（遺構の確認）４－n，４－o，４－p，３－p，３－o，３－pグリッドで検出された。遺構確認面は，表土下の地山上面である。



第３図　竪穴住居跡

（平面形）　平面形は，ほぼ円形を呈するが，西側がややふくらむ。南北径２ｍ60cm，東西径２ｍ50cmを測る。

（壁・床面）　住居跡の深さは，10cmほどで浅く，壁はなだらかに床面に接する。床面は平担である。

（炉）　炉は石囲い炉であり，住居跡内の北壁によったところに構築している。炉の構築は，まず，床面を隅丸長方形に５～10cmほど掘り，この壁に沿って河原石で石組みしている。河原石の長径，10～20cmで，大きな安定性のある礫は横位に，扁平な礫は縦位に埋設している。炉の南端には，径15cmの深鉢形土器の胴部下半が埋設されている。火床面は赤褐色を呈するが，あまりかたくない。

（柱穴）　柱穴らしいピットは，住居跡の外に１ヵ所（P_1）検出されただけである。

〈出土遺物〉（第５図）（図版４）

縄文式土器（１～５）　出土遺物は，縄文式土器のみである。１は，炉内に埋納されていた土器である。この土器は，深鉢形土器の胴下半部であり，胴部上半は欠失している。胴部には横位に縄文が施文されている。色調は，内外面とも黒褐色を呈する。胎土には砂粒を多く含む。２～５は，埋土中から出土したもので，斜縄文を地文とし，沈線文が施文されている。後期初頭の土器であろう。

竪穴遺構（第４図）（図版３）

（遺構の確認）　24－i，24－j，25－i，25－j グリッドの地山上面で確認された。

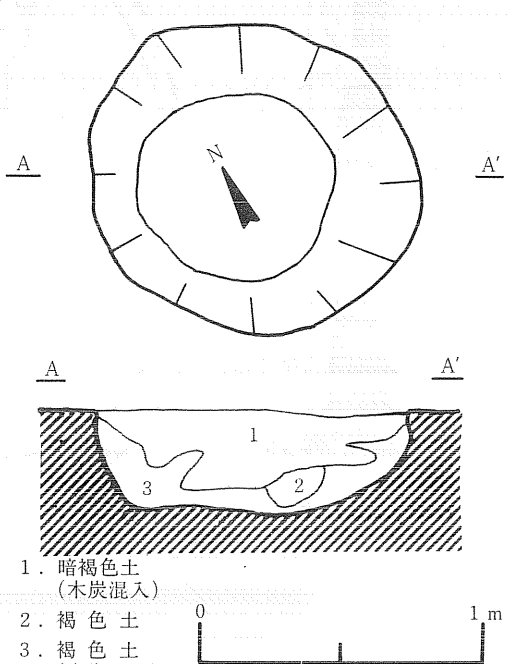
（平面形）　平面形は，径１ｍ10cmほどの円形を呈する。

（壁・床面）　壁は，凹凸が激しく急傾斜をなすが，床面近くでゆるやかになる。床面は，わずかに凹凸をなす。

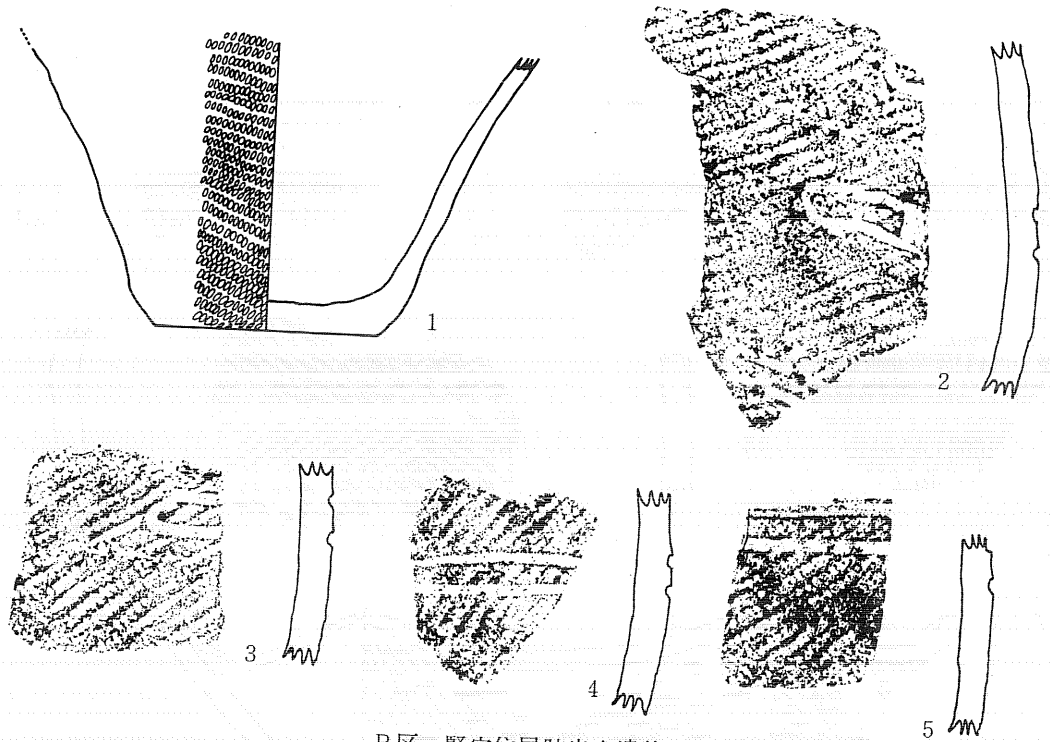
（柱穴）　柱穴は，遺構内外ともに検出されなかった。

〈出土遺物〉

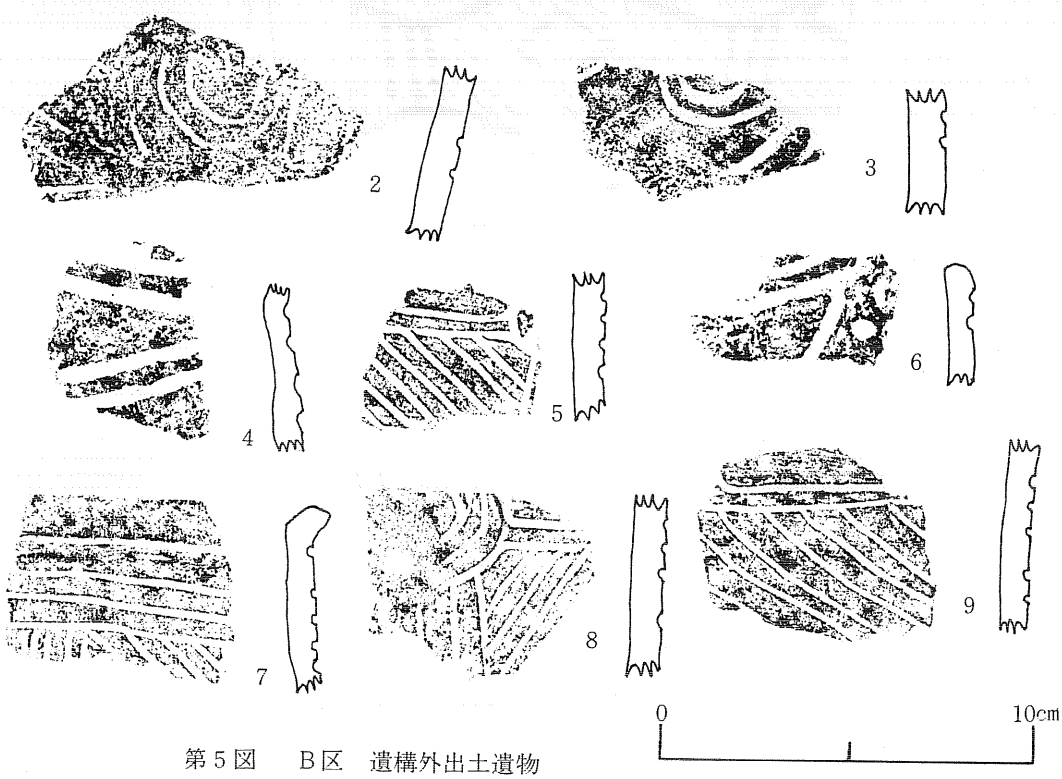
人工品であるかどうか不明であるが，床面から２個の円礫が出土した。凝灰岩質で，径６cmの球形を呈する。



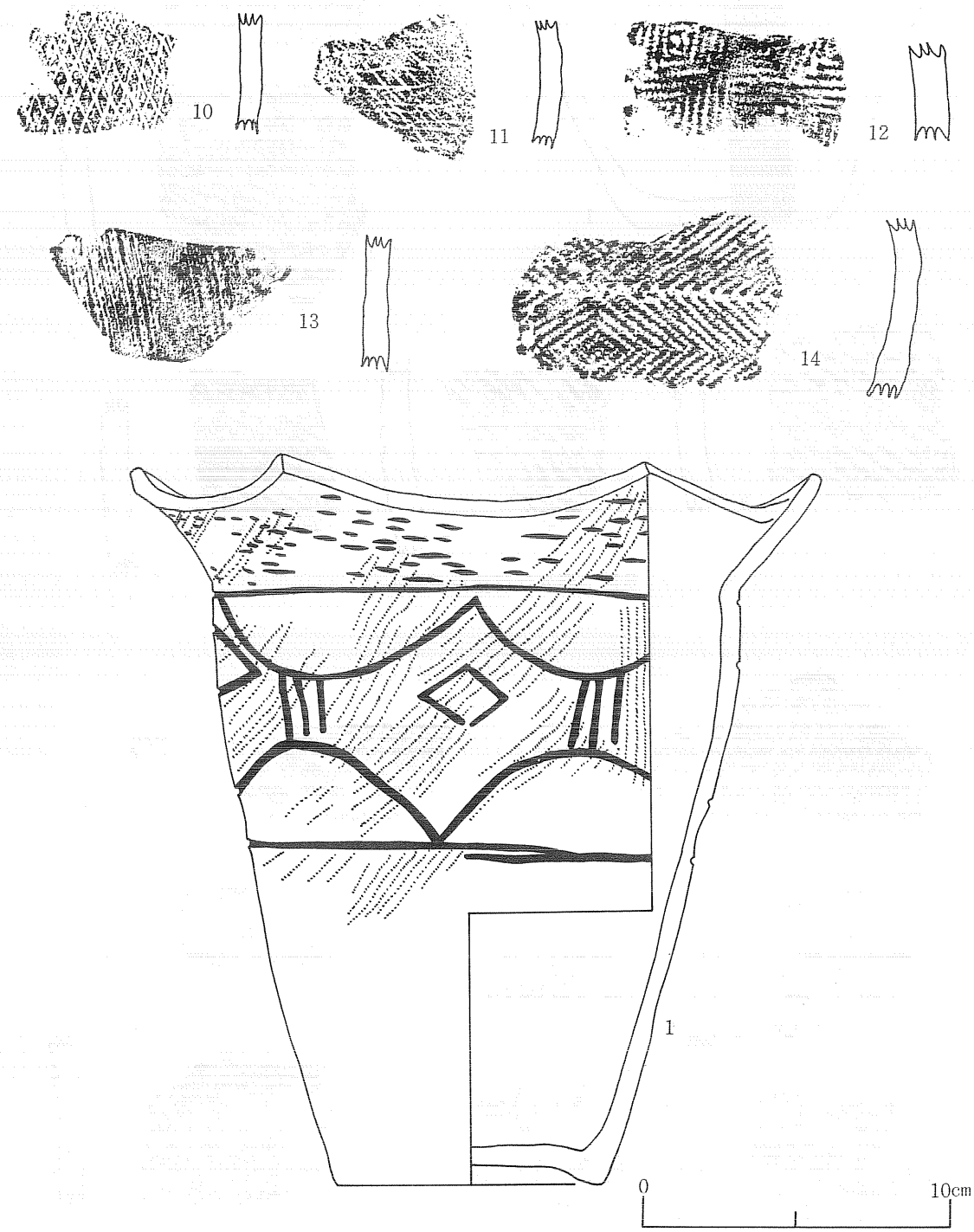
第４図　竪穴遺構



B区　竪穴住居跡出土遺物



第５図　　B区　遺構外出土遺物



第６図　　Ｂ区　遺構外出土遺物

V　遺構外出土遺物（第５図，第６図）（図版４）

出土遺物は，縄文土器のみであった。器形，文様などから４類に分類した。

（ａ類）　沈線文の施文された土器であり，１～９がこの類に属する。

１は，ほぼ復元することのできた土器である。底部から胴部は円筒形をなし，口縁部は大きく外反する。口縁には６個の突起がある。底部は上底である。内面は，ていねいに研磨されている。外面には，斜位または縦位の縄文が地文として施文されているが，部分的に磨消されている。口縁部には横位の短い刺突文が施文されている。この刺突文は，細い棒状工具を右から左に押し刺すように施文している。頸部と胴部には１条の沈線がめぐる。この沈線間には弧状の沈線が施文される。弧線の頂部から頂部には，３条の縦位の沈線が施文されている。胴部文様帯は，弧線，直線によって５区画に分けられる。１区画には菱形の沈線文が施文される。しかし，１ヵ所だけ，菱形文の施文されないところがある。色調は，内外面とも炭化物が付着して黒褐色を呈するが，胴下半部は２次的火熱を受け赤褐色を呈している。口縁部径22cm。頸部径17cm。底部径９cm。器高24cm。２～９も曲線，直線の沈線文が施文されているが，地文として縄文は施文されない。

（ｂ類）　網状撚糸圧痕文が施文された胴部破片である。10と11がこの類に属する。いずれも赤褐色を呈する。

（ｃ類）　条痕文の施文された土器である。13がこの類に属する。

（ｄ類）　縄文の施文された破片である。12と14がこの類に属する。14は羽状縄文である。

Ⅵ　む　す　び

大内坂Ⅱ遺跡は，広い範囲にわたって遺物が散布していたが，今回の調査で検出された遺構は，竪穴住居跡１，竪穴遺構１である。

竪穴住居跡は，縄文時代後期初頭のものと考えられる。後期初頭の住居跡が検出されたのは，能代・山本地方では最初であり，貴重な資料を得たことになる。

末筆になりましたが，本報告をまとめるにあたって，秋田県教育庁文化課富樫泰時，秋田城跡発掘調査事務所小松正夫，日野久，石郷岡誠一，大館市史編纂室板橋範芳の諸氏に懇切な御指導と教示をたまわった。また，東北農政局能代開拓建設事業所，能代市教育委員会には，発掘調査から遺物整理にいたるまで御協力いただいた。記して感謝の意を表するしだいである。

註

(1)　大和久震平「能代市金山チャシ発掘報告」秋田県立鷹巣農林高等学校郷土史研究部報告第１冊（昭和32年）

(2) 昭和47年に発掘されたが，報告書は未刊。

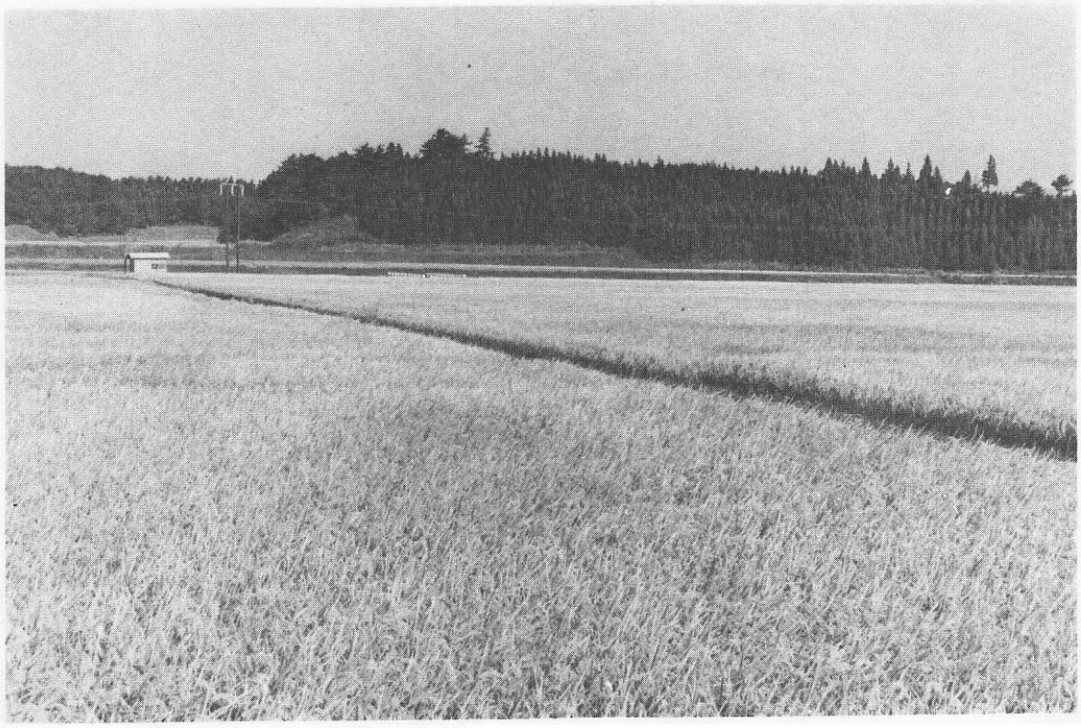
(3) 伊藤種秋，岩見誠夫，永瀬福男「能代山本地区広域農道建設に伴う発掘調査報告書－八森坂，南山ノ上，サシトリ台遺跡－」　秋田県教育委員会（昭和51年）

(4) 昭和52年８月，秋田県教育委員会が発掘調査する。

(5) 能代市教育委員会「能代市大館遺跡(野代営擬定地)」（昭和48年）「大館遺跡発掘調査概報」（昭和49年）「大館遺跡第４次発掘調査概報」（昭和50年）

(6) 大和久震平「柏子所貝塚発掘調査報告書」

図版 1

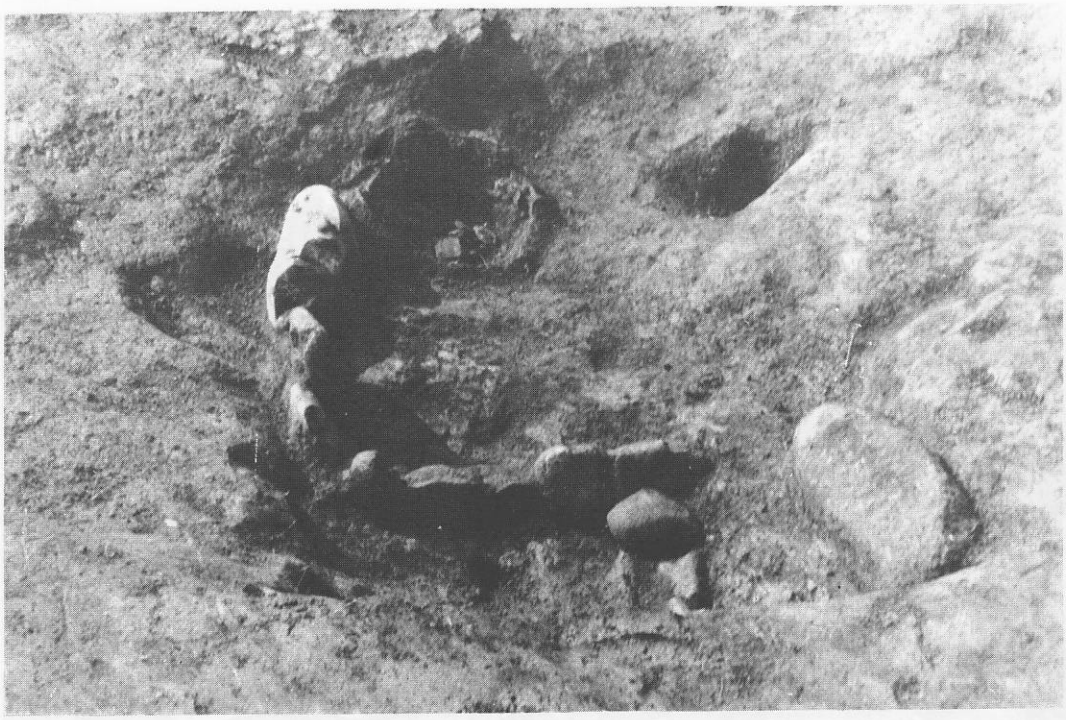


遺　跡　遠　景

発掘調査風景

図版 2

竪　穴　住　居　跡

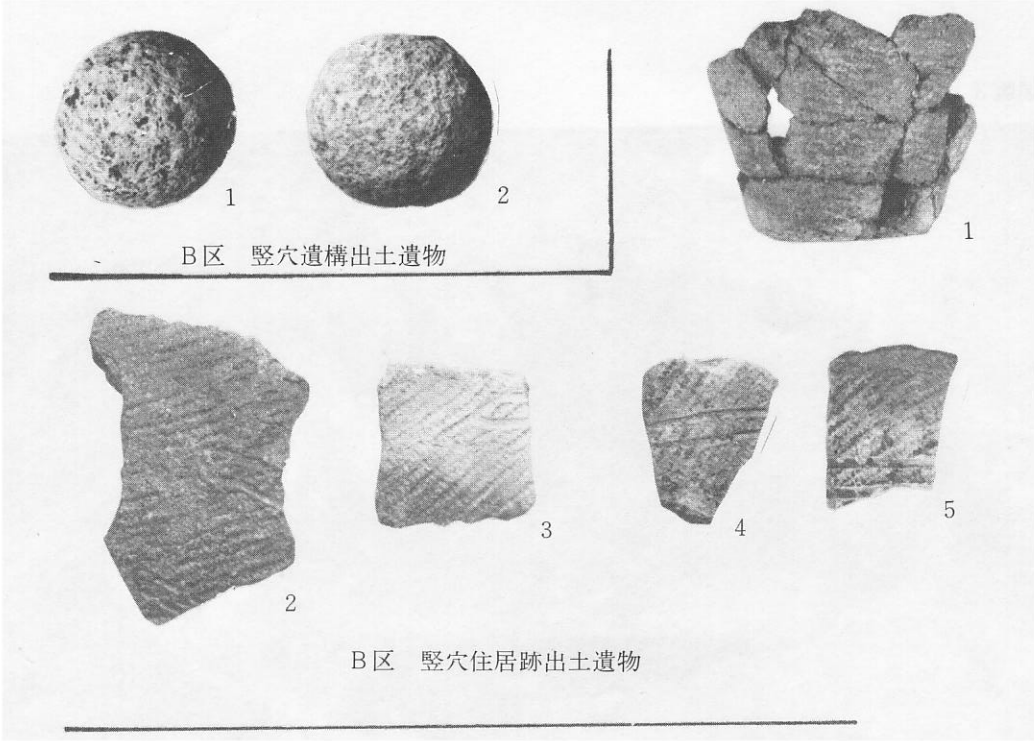


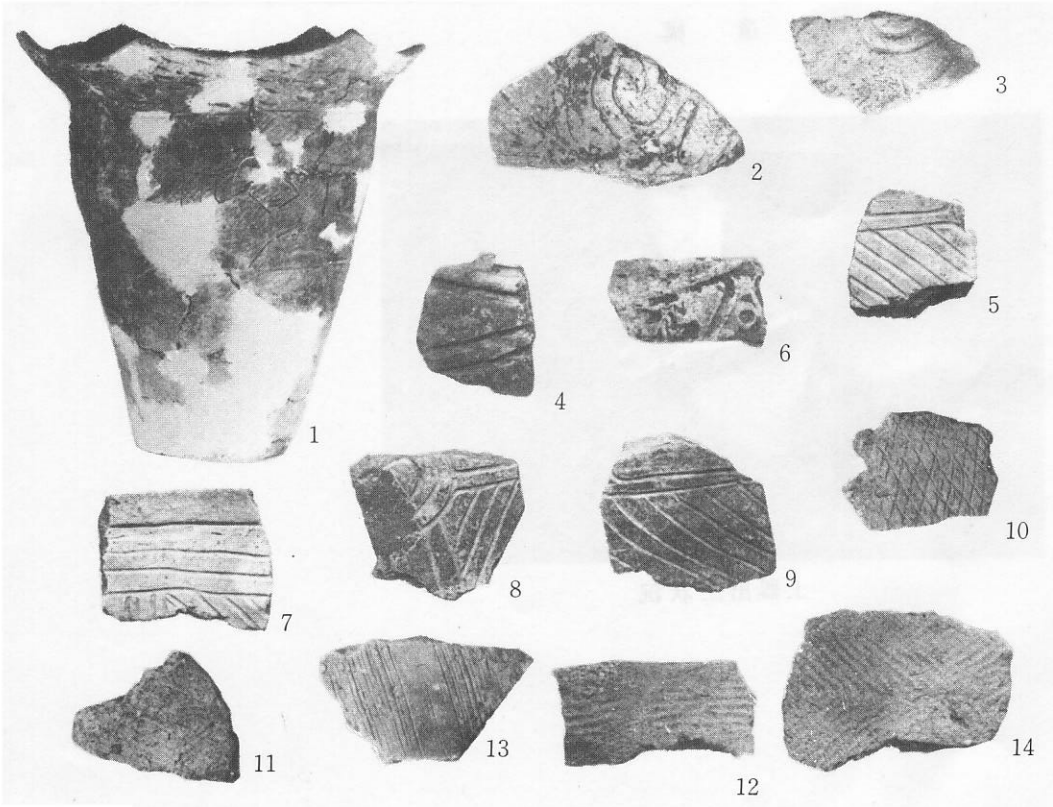
竪穴住居跡内の炉

図版 3

竪　穴　遺　構

土器出土状況





図版4　　B区　遺構外出土遺物